

## 普及活動情勢報告（平成21年 1月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

### 情勢報告

#### 入河内大根のこそう会が生協と交流



収穫作業を体験

1月16日、「こうち生活協同組合」の会員など12人が安芸市入河内地区を訪れ、「入河内大根のこそう会」と交流した。

まず、「入河内大根のこそう会」が設置している共同圃場に行き、振興センターが「入河内大根」の特徴や栽培方法及び活動内容などを説明した。参加者からは、「入河内大根」のおいしい時期は？や「茎が赤いと根も赤いのか？」など熱心な質問があり、会の代表者や振興センターが丁寧に答えた。さらに、翌日に開催される県立歴史民俗資料館でのイベントで販売するダイコンの収穫を兼ねて、実際に収穫を体験した。参加者は、引き抜いたダイコンの大きさに驚いていた。また、生のまま試食し、歯触りや甘さを確かめると、参加者全員から「入河内大根」を持って帰りたいとの希望があり、会員の圃場から購入した。その後、「こまどり温泉」に移動し、「入河内大根」を使った料理で昼食をとった。現在「こうち生協」との商談がすすんでおり、今回の交流が販売を後押しすることが期待される。

#### 「明日へ男女（とも）に手をたずさえてのつどい」の開催



安芸・室戸地区農村女性リーダー協議会主催により1月16日、北川村村民会館で「我ら、土佐野菜応援団」をテーマにつどいの開催を支援した。北川村長をはじめ65名の参加により、地場の農産物（ナス、ピーマン、柚子、アスパラガス等）の料理によるランチビュッフェから始まり、高知県園芸流通課プロジェクトマネージャーを講師に演題「消費地から見た高知県農産物の課題、今後期待すること」、地産地消の紙芝居、最後に野菜体操をみんなでおこない閉会した。産地としてのまとまりの重要性が再認識され、女性農業者も市場視察研修に参加し消費者ニーズを知る事も大切と話された。今後も女性リーダー活動へつながる情報の提供や提案をおこなう。

#### 次世代へつながる環境保全型農業



「天敵昆虫や受粉用ハチのことも考えて、農薬を選ばないかがやねえ」

1月9日、高知農業高校の2年生16名が、安芸管内の環境保全型農業に対する取り組みを学習するため、安芸市を訪れた。

学生達は、振興センターから管内の環境保全型農業の歴史や、現在の活動状況について説明を受けた後、農業高校の先輩でもある安芸市内の農家の圃場を視察。土着天敵や微生物製剤が、実際どのように利用されているのかを学んだ。

初めは天敵昆虫が分からずとまどっていた学生達も、近藤さんや振興センター職員と一緒に観察するうちに慣れてきたようで、天敵の使い方やコツについて盛んに質問をしていた。

高知農業高校では、卒業研究として地域の土着天敵の分布について調査を行っているとのこと。今後も、次世代の農業を担う彼らが、環境保全型農業について継続的に学習できるよう支援していく。

## 第2回ナス品目別検討会を安芸地域中芸地区で開催



土佐鷹の栽培状況を確認しながら、生産者が話し合っていた

第2回のナス品目別検討会を安田町で振興センター主催により開催した。参加者は、安芸管内の各地区から篤農家を含めた生産者や遠くは幡多地域の生産者等52名の参加者があった。

検討会は土佐鷹の圃場3箇所をまわり、厳寒期のナスの樹姿などの生育状況の確認や3月までの栽培管理についてのポイントを振興センターから説明した。また、圃場主の栽培管理の考え方やそれに対する質疑応答を行い、そのやりとりを参加者全員が情報共有できるように復唱を行った。

その後、土佐鷹の販売計画や販売状況などを説明し、生産から販売まで一体となった取り組みを行っている。今後とも振興センターでは土佐鷹の普及に向け関係機関とともに取り組んでいく。

## こうち型集落営農組織：「北川村くぶつけ集落営農組合」が設立しました。



総会の様子

北川村久府付集落では、平成19年10月より、「集落の農地を守っていく」ことを目的とし話し合いをスタートした。また、平成20年には、「こうち型集落営農モデル育成事業」の指定を受け、ユズや露地野菜を導入し「孫子に引き継ぐ久府付集落の農業」を目指し、組織づくりを検討してきた。

このような経過を踏まえて、平成21年1月25日に、「北川村くぶつけ集落営農組合」の設立総会が開催され、集落の賛同を得て組織が設立した。

今後は、この組織を中心とした営農がスタートすることとなるが、振興センターでは、この組織が軌道に乗るように一層の支援を行っていく。